

しんぼりがわごが
新堀川護岸

日時令和2年10月4日
記者発表 令和2年10月1日

1. 調査の概要

(1)調査の目的

高知県が計画している都市計画道路はりまや町一宮線（はりまや工区）に伴って、道路工事により影響をうける部分について発掘調査を実施し、国民の共有財産である遺跡（埋蔵文化財）の記録保存を行うとともに、新堀川護岸石垣解体を行い、記録保存を図ることを目的とするものです。

(2)調査対象地

横堀公園（高知市菜園場町1）

(3)調査期間

令和2年6月22日～令和3年3月（予定）

(4)調査面積

534㎡

(5)調査体制

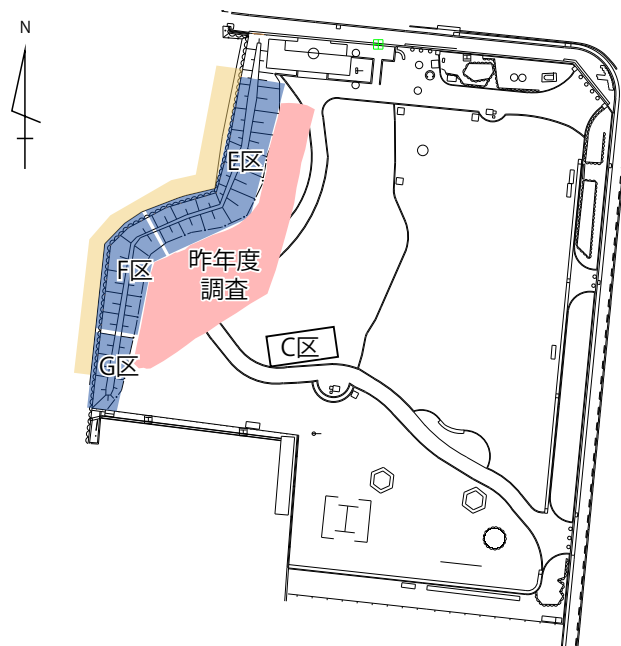
調査委託者 高知県

調査受託者 東山建設株式会社、

（公財）高知県文化財団埋蔵文化財センター

(6)調査協力

地域の方々、高知県、高知市、東山建設株式会社



調査区（S=1/1000）

2. 新堀川の概要

(1)調査の経緯と経過

道路拡幅に伴い、横堀公園を開削し、現況の新堀川護岸を東側に移築する工事計画があり、「現在の石垣の裏側に古い石垣が残されていることも考えられるので事前に確認が必要」との意見が専門家から出たため、現状の石垣の形状や規模などの記録を残すことを目的とした一次調査を実施しました。調査の結果、古い石垣は発見できませんでしたが、石垣背面で遺構と遺物が見つかった

たことから横堀公園の開削範囲について面的な記録保存を目的とした二次調査を実施することになりました。

(2)新堀川の概要

現在、新堀川と呼ばれている川は本来、江ノ口川と堀川を結ぶ「横堀」という運河でした。

「新堀」と呼ばれていた部分は、横堀から西に「材木町」を横断し「紺屋町」まで伸びる部分を指します。それらを総称して「新堀川」と呼ばれるようになった可能性があります。高知城の外堀にあたり、正保元年（1644年）に描かれた「土佐国城絵図」に外堀として描かれています。現在のはりまや町界隈は「下町」と呼ばれ、



土佐国城絵図（国立公文書館デジタルアーカイブ）

※一部加筆

市町を中心に商人や職人町が形成されていました。界隈にあった「材木町」の木材の運搬や、「紺屋町」など職人町の材料の調達など幅広い水運を支えてきた運河です。しかし、陸上交通の整備に伴う水運の衰退や、コンクリートの登場による木材の需要減少に伴い新堀部分は明治から大正にかけて埋め立てられ姿を消しました。

堀の護岸はその土地の所有者が改修する傾向が強く、新堀川も例外ではありません。今回対象とした部分については横堀の東岸に「木屋」と号した商家「竹村家」があった場所であり、竹村家は四国総合ビル、さえんば耳鼻科、横堀公園の一角を幕末期頃所有していました。竹村家の母屋や蔵などは戦後まで四国総合ビルの場所に残っていましたが、今は取り壊されています。しかし、建物の基礎でもあった護岸石垣は現在も新堀川に残っています。

3. 調査の成果

(1)過年度調査の概要

新堀川護岸の調査は今年で3年目となります。

一次調査では、発掘調査、石垣カルテの作成、レーダ探査を行い、発掘調査では遺構と遺物の確認を行いました。

二次調査では、一次調査において複数の遺構面を確認したことを受けて影響を受ける部分全体の調査を行い、第1遺構面（昭和20年頃）、第2遺構面（明治～大正）、第3遺構面（19世紀初頭～中頃）、第4遺構面（17世紀後半～18世紀初頭）からなる4面の遺構面を確認しました。

(2)今年度調査の概要

※発掘調査は継続中で、以下の内容は現段階（9月上旬）でわかっている状況です。

今年度の調査は、移設工事の対象となる石垣の解体調査および遺構の調査を行なっています。

石垣の解体調査では一次調査で作成した石垣の図面をもとに、一石ずつ解体をしています。石垣を支えるための構造や、孕みと呼ばれる欠陥の原因もこのときに探ります。

新堀川護岸の横堀公園側石垣は、石垣の加工方法や積み方で大きく3つの区画に分かれていることがわかっており、解体することでより明確になりました。

3つの区画を北からE区、F区、G区と分けました。E区がこのなかで一番古く、丁寧な亀甲積み部分です。特徴的な積み方をしており、天端より4段目までの築石には、背面に比較的大きな石が充てがわれています。F区はこの中では一番新しく、セメントを使った練積みとよばれる技法によって積まれています。調査区の最南であるG区はグリ石としての碎石が多く使用されていることや、上3段のみ練り積みになっている部分があり、現在も境界線に相当する場所であることから増改築の際に改修されたと考えられます。

まとめ

新堀川護岸の石垣は何度も増改築されており、その時々の様相が残されていました。水運に即した土地利用が顕著であり、水と人との距離が今より近かったことがわかります。また、建築用と思われる木材を根入れや胴木などに使用しており、材木町との関連性を窺わせる痕跡も検出しました。

石垣の下部を検出し、全長約4mに渡ることが判明しました。これだけの石垣を潮の満ち引きのなかでどのように積んだのか、その高さの根拠など検討の余地が残ります。

謝辞

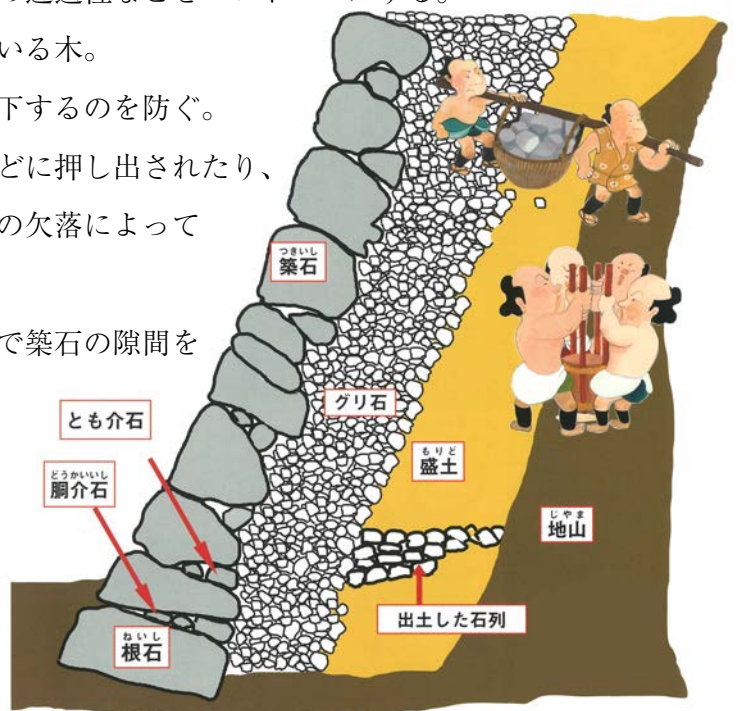
調査にあたっては多くの方々にご支援・ご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。今後ともご理解・ご協力賜りますようお願い申し上げます。



E区北壁土層

石垣用語

- 築石（つきいし） 石垣の表面を構成する石。普段見えている部分は築石の面（ツラ）。
- 控え（ひかえ） 築石の長さ。
- 介石（かいいし） 築石の角度や、築石同士の間隔をコントロールする石。
グリ石 石垣の背面の透過性などをコントロールする。
- 胴木（どうぎ） 石垣の下に敷かれている木。
石垣がまちまちに沈下するのを防ぐ。
- 孕み（はらみ） 石垣が背面の植栽などに押し出されたり、
介石の割れやグリ石の欠落によって
おこる現象。
- 練積み セメントや粘土などで築石の隙間を
埋める積み方。
- 空積み（からづみ） 築石だけで石垣を
積む積み方。



『高知城石垣野外博覧会』

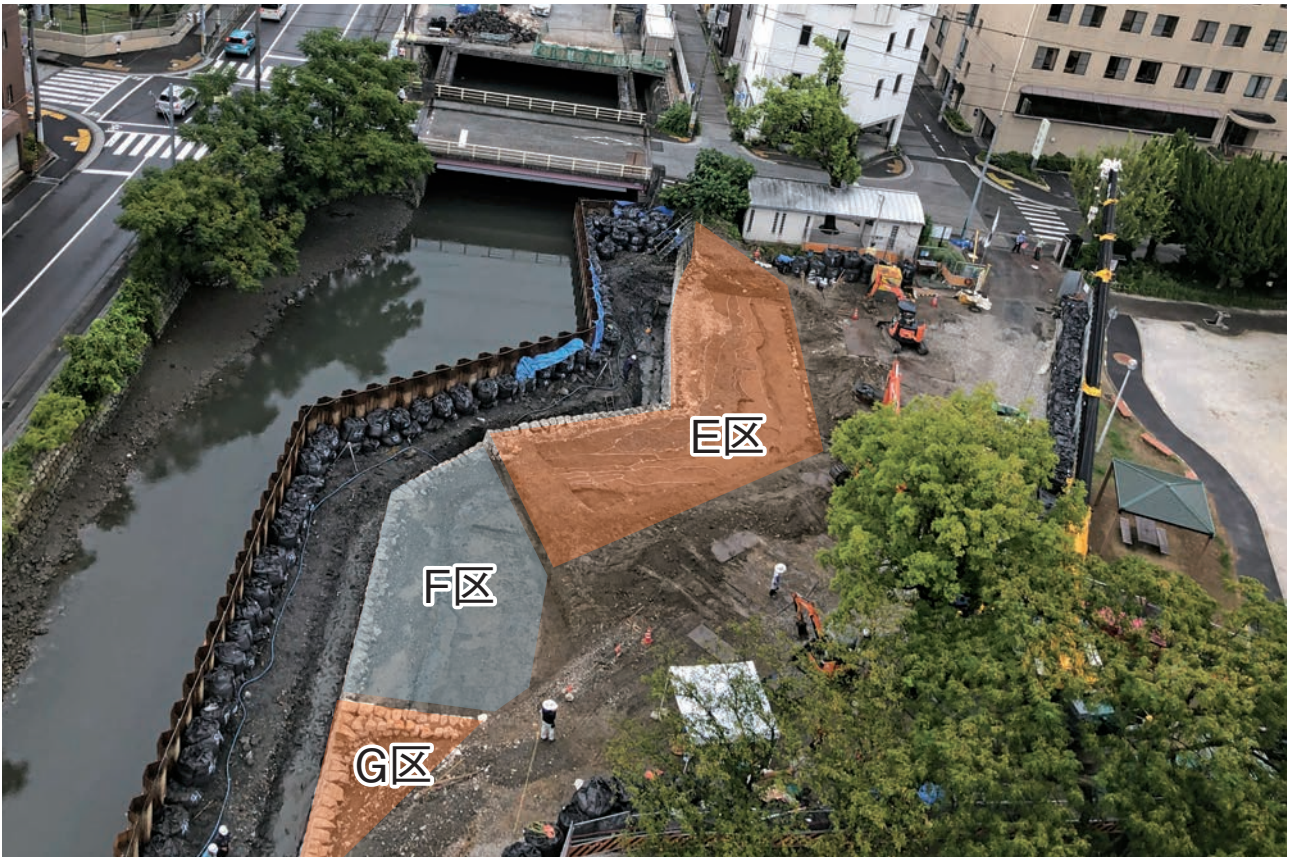
2007 (財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター



背面石垣および護岸築石検出風景（F区・G区）



背面石垣および護岸築石検出風景（E区・F区）



調査区分



練積み部分解体作業風景